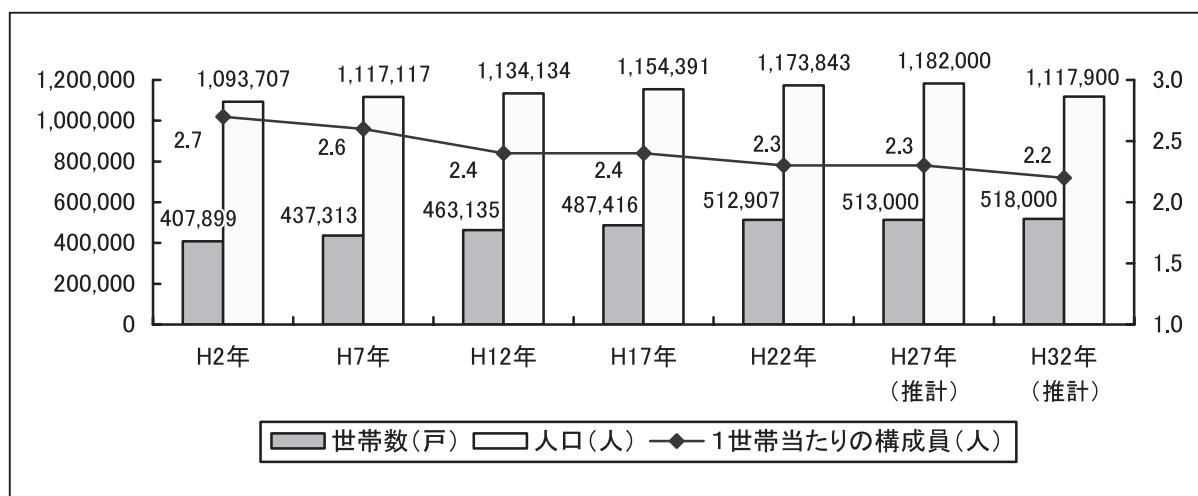


第2章 計画策定の背景

1 人口、世帯の状況

(1) 人口と世帯数の推移

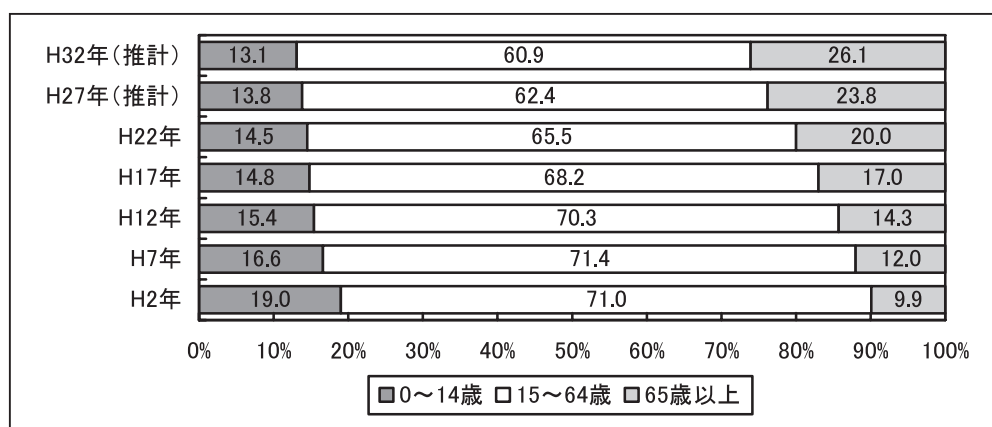
日本全体では、総人口が減少する人口減少社会を迎えていますが、本市の人口は、増加を続けており、平成22年には117万人を超えています。世帯数も人口と同じく増加していますが、1世帯当たりの構成員数は平成2年の2.7人から平成22年の2.3人へと減少しています。なお、第5次広島市基本計画の推計では、本市の人口は平成27年頃以降、減少に転じるとしています。



出典：平成2年～平成22年：国勢調査、平成27年・平成32年：第5次広島市基本計画

(2) 少子・高齢化の進行

年齢3区分別の人口の推移をみると、老年人口（65歳以上）の割合が増加し、年少人口（0歳～14歳）、生産年齢人口（15歳～64歳）の割合が減少しており、今後も少子・高齢化が進行すると見込まれています。

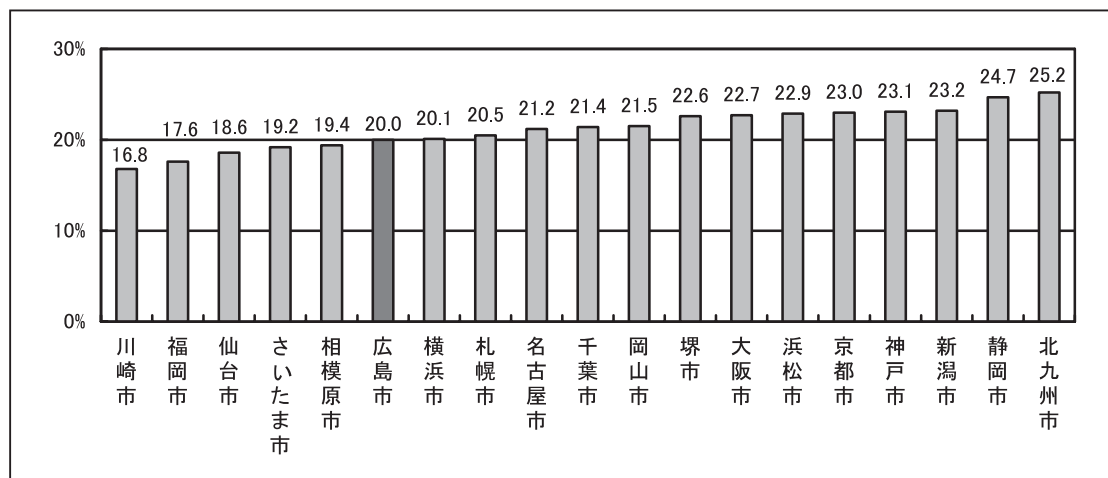


※表示の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

出典：平成2年～平成22年：国勢調査
平成27年・平成32年：第5次広島市基本計画

(3) 高齢化率の政令指定都市比較

平成22年の本市の高齢化率（20.0％）を他の政令指定都市（熊本市を除く。）と比較すると、低い方から6番目となっています。

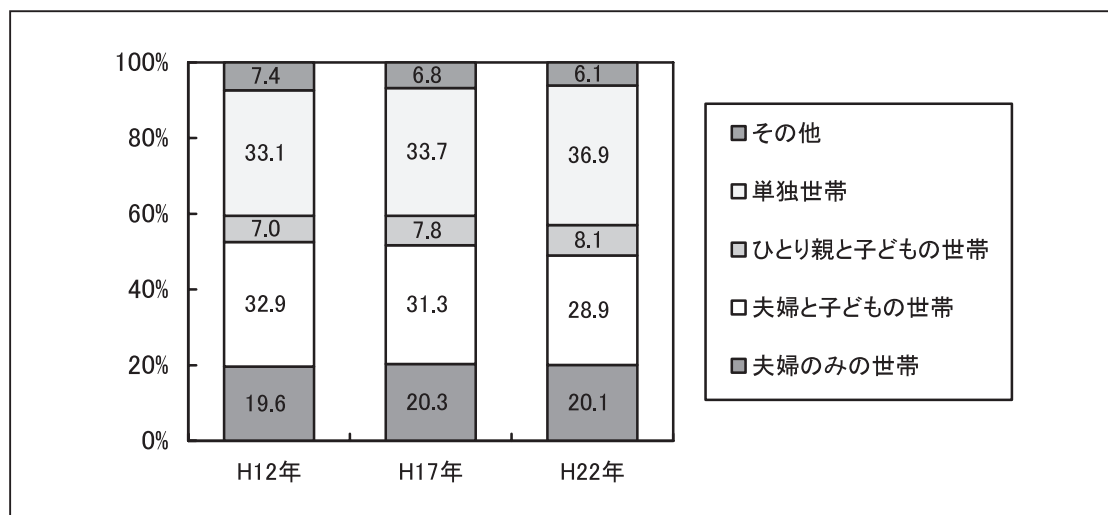


出典：国勢調査

(4) 世帯構造の変化

夫婦と子どもの世帯が減少し、単独世帯、ひとり親と子どもの世帯、夫婦のみの世帯が増加しています。

平成22年の単独世帯と夫婦のみの世帯を合わせると全体の57.0%となり、平成12年の52.7%に比べ、増加しています。また、単独世帯と夫婦のみの世帯に占める65歳以上の者がいる世帯の割合も、平成12年は27.6%、平成17年は31.9%、平成22年は33.5%と増加しています。



※表示の単位未満は四捨五入しているため、総数と内訳の計が一致しないことがある。

出典：国勢調査